

③④

私が東大見学に参加した理由は、東大の赤門を直接見てみたいと思ったからです。私は東大を受けることのできるような学力は無いし、むしろ受けようとも思っていなかったので、良い経験になるのではないかと考えていました。東大の赤門の前にいざ立ってみると、神社のような門構えで、さすが日本の最難関の大学だなあと感じました。大学の門には見えなかったです。東大のキャンパス内に入っても、その印象は変わらず、どこかの歴史的建造物のような建物がたくさん並んでいるのに驚きました。広く、大きくそしてすばらしい建物の中で世界レベルのことを学ぶことができるなんて、すごいなあと感心しました。私は、あまり東大生をあまり見かけることはしませんでした。意識の高い人々がたくさんいるのだろうと感じました。

私がオープンキャンパスで受けた講義は、法学部の授業です。わたしは将来、文系進学を希望していて、なにか為になることを学べるのではないかと思います。文系の中でもあまり知らない分野であった法学部を選びました。実際に講義を受けてみると、別に社会が苦手なわけでもないのに全く話の意味が理解できず、教授の説明に関してもついていけないことがたくさんあって焦りを感じました。講義が終わった後の質疑応答の時間では、私が全く理解できなかった話の内容を全て理解していて、それについて自分の考えを持ち、教授と討論をしていた人もいました。もちろん私と同じ高校生で、東大生ではありません。意識の違いが、ここまでも差を生むのかと少し驚きました。そして、これからこの大学に入って学ぶ人たちはこのような人なのかな、と思いました。

また、私がとても自分のためになったと思っているのが、1日目の夜にあった、OBOGによる懇談会です。「東大生」と聞くと、どうしても真面目だ、とか少し変わってる人が多いんじゃないか、というイメージを持ってしまっていたのですが、そのような人だけではないことが分かりました。私は、その日初めて現役東大生と会い、話しましたが、みんな面白いし、自分たちが知りたいことをたくさん話してくださったので、とても充実した時間を過ごすことができました。とても興味深かったのが、その時来てくださった方のほとんどが1年の頃はどこの大学に行くとか、何になるとかなんて決めていなかった、と言っていたことです。東大に受かるのだから、1年の頃から猛勉強して、将来の計画を立てて、東大に受かったのだと思っていたら、大違いだったことがわかりました。また、みんな最初から上位にいた人ばかりではなく、二高に入って周りの人のレベルの高さを実感し、悔しい思いをした人も少なくはないことを知りました。私は、この学校に入学して、まだあまり良いと言える成績をとっていないので、自信を無くし、これからどうなるのだろうと不安を抱えていましたが、自分の気持ちの持ち次第では、自分が思っている以上の結果を出せるのではないかと思います。だからと言って、東大に入ろうとまでは思いませんが、大人になって、もっと頑張ればよかった、と後悔しないように、いま精一杯のことをして自分の夢を叶えたいと思いました。私の将来についての自覚を再確認できた行事だったと思います。

②

私は、小学1年生から2年生の間アメリカに住んでいたことがきっかけで、外国と関わりを持つ仕事に興味を持ち始めました。だからと言って、何になりたいとか、どのような仕事に就きたいとか、具体的に決まっていることは特になく、ただ単に外国と関わりを持てる仕事がいいなあって、と漠然としたことしか考えていませんでした。だから今回の企業大学訪問は、将来のことが詳しく決まっていな私にとってとても嬉しい企画でした。

また、私は前から少し大使館について興味を持っていたので、中国大使館へ企業訪問として行かせていただけるというのはとても嬉しいことでした。中国大使館は、周りを木々で囲まれた所にあり、建物の中には豪華な応接室や宴会場などがあり、またそこには中国の文化を象徴するような物も多く置いてあり、とても立派な建物でした。隣には中庭やテニスコート、プールなど、娯楽施設もありました。日本で暮らす大使館員にとってとても

良い場所だと思いました。大使館員の方からお話を伺って、印象に残ったことは外国で働く上での心構えです。国際関係の仕事で言語以外に必要なのは、その国の基本的なマナーや法律を知り従うこと、そしてその国の文化を知ることだそうです。当たり前のように思いますが、その国で生活するうえではとても欠かせない、大事なことだと聞いて思いました。自分が今まで過ごしてきた環境とはまた変わり、変わるだけでなくルールまでが変わるのだから、とても暮らしづらいただろうと思います。海外で仕事をするには、言語だけ覚えていてもだめなのだと分かりました。また、大使館員の方は、日本で仕事をすることによって、中国のことを全面的に見れるようになったとおっしゃっていました。経済は発展しているが、環境問題などの問題が多く発生しており、それらを解決すべきだと。このように、海外で働くことで自分の祖国をまた違った視点で見ることができ、新たな発見や課題をも見つけることができるのではないかと思います。

このように、海外で働くには言語を覚えること意外にも大変なことはたくさんあります。しかし、それをたえることで得られるものもまた大きいと思います。今回、私が訪れたのは中国大使館でしたが、中国と日本は対立することが多く、テレビなどのニュースでも中国に関してあまり良いことを知らされていませんでした。そのため、テレビにうつる中国しか見ていなくて、本当の中国を知らない人からするとあまり中国と聞いていいイメージを持たない人もいるかもしれません。しかし、私は今回中国大使館を訪問して、中国は私たちが想像しているほど悪いところではなく、良い場所もたくさんあることを知りました。大使館員の方も、テレビに映っているのは一部分だけであり、客観的に中国を見るべきだとおっしゃっていました。隣国同士、いつまでも対立を続けるのではなく、日中を友好に保つための活動を積極的に行うなど、自分たちが今できることを行うことが大事なのだと思います。大使館員は、言語を覚えるだけでなく、国が変わったことからの環境の変化やマナーや法律の変化、国民性を学んで生活をしたり、その国と自分の国の友好関係を築くこともしなければなりません。しなければならぬことがたくさんあり、とても大変なことだと思います。しかし、自分の国の新たな発見をできたり、また他国との関わりも多くすることができる、すてきな職業だと思いました。

今回の企業大学訪問で、私の外国との関わりを持てる仕事に就きたいという気持ちをもっと大きくなった気がします。まだ具体的に何がしたい、と言うのは決まってはいませんが、海外で働くこと、海外と関わりを持った仕事に就くことでのやりがいや心構えなど、もっと大事なことを学ぶことができました。とても貴重な経験だったと思います。この自分がしたい職業につけるように、そしてさらに私にとっての選択肢が広がるように、これからも勉強をしっかりと励んでいかなければいけないなあと思いました。結局、自分がしたいことをするには勉強をして、自分で自分の道を作らなければならないと思うので、しっかり頑張りたいと思います。